

日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査プロジェクト

H26-29 科学研究費（基盤B） 課題番号26284071 代表：東京学芸大学 齋藤ひろみ
研究課題：地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

1

多様な言語文化背景を持つ子どもたちのリテラシーフォーラム2 2015.3.22
「子どもたちのリテラシーを多面的に捉える」

日本生育外国人児童の 文章構成力の発達に関する研究 －出来事作文の分析を通して－

発表者： 鳶田 陽子
齋藤 ひろみ
内田 のり子
菅原 雅枝

発表内容

- 1 本研究の目的
- 2 先行研究
- 3 分析対象作文
- 4 文章構成の分析方法
- 5 分析手順
- 6 結果 1 全体的な傾向
結果 2 ケース別
- 7 まとめと課題

1 本研究の目的

研究の全体像

日本で生まれた、あるいは幼少期から日本で育っている（以下、日本生育外国人児童）のリテラシーの発達に関し、その重要な要素である書く力の発達を、かれらの作文の分析を通して明らかにすることを目的とする。

本研究の目的

2 - 6年にかけての、作文の文章構成力を、エピソード分析によって、記述し、日本生育外国人児童の特徴を捉え、日本語指導への示唆を得る。

2 先行研究

(1) 中島和子 (2014) 海外補習授業校生徒の作文力

段落構成の分析の結果 (日・英語)

2年生まで 多くに段落なし

5年で 段落はあるが関係が不明確

6年で 段落が明確に構成

★日本語作文を追いかけるように英語が発達

(2) 生田裕子 (2006) 日系ブラジル人中学生の作文

日本語モノリンガル生徒との比較

文の複雑さ・産出量 滞日3年で 差がなくなる

表記・語彙選択・文法の正確さは 滞日6年までに

語の接続、節の接続、文の接続 滞日4年以降も誤りあり

3 本研究の対象作文

2007年、2008年入学児童のうち、

2～6年の5年間の作文がそろっている児童

外国人児童 ベトナム20 中国5 カンボジア5
ラオス2 フィリピン1

入学年度	外国人児童 (F)	日本人児童 (J)	計	作文数
2007年	17	7	24	120
2008年	16	7	23	115
計	33	14	47	
作文数	165	70		235

4 分析方法 1 分析観点

最後の金校遠足は、たのしかった。ぼくは、**公園にきて最初に

ぼくは、大池公園にきて最初に桜山にやってきて班でレクをしました。はじめにだるまさんがころんたをやりました。欠にかくれんぼをやりました。次に色おにをやりました。たのしかったです。

欠にやってきたのはあすれちっくにやってきました。あすれちっくでやったことは、6年の***と***と、5年の***と1年の***とゴーファイブをやりました。たのしかったです。

並列

欠は昼食とおやつです。おべんとうおいしかったです。おやつは、友達とこうかんしたりしました。たのしかったです。

欠はふれあいタイムです。ぼくはこわい広場で話をきいてるとにわとりがはいってきたので、ちょっと怖かったです。動物ははつかねずみとひよことモルモットがいました。→こわくてみてることしかできませんでした。こわかったけどたのしかったです。

精緻化

班のみんなわへとへとです。あした学校があるからやすみがよかったです。

いいおもいでができました。

※6年F児童

4 分析方法2 分析単位

次の4つのまとめり（分析単位）の関係から検討

- ・段落間
- ・エピソード間
- ・センテンス間
- ・アイディアユニット間

センテンスのラベル付け

センテンスが表す内容を3カテゴリーに分類しラベルを付した。

- ・したこと(行動・体験) : **A**ction
- ・見たこと(観察・描写) : **D**escription
- ・感じたこと(心情・考え) : **I**mpression

4 分析方法3 分析単位の定義

エピソード

エピソードの定義 : あるひとつの出来事の始まりから終結まで

内田伸子1996 『子どものディスコースの発達－物語産出の基礎課程』 風間書房

本研究におけるエピソード:

時系列で展開される主に場面で区切られる経験的出来事。

エピソード内の階層:

上位エピソード(EP)、下位エピソード(ep)に分節化

アイデアユニット

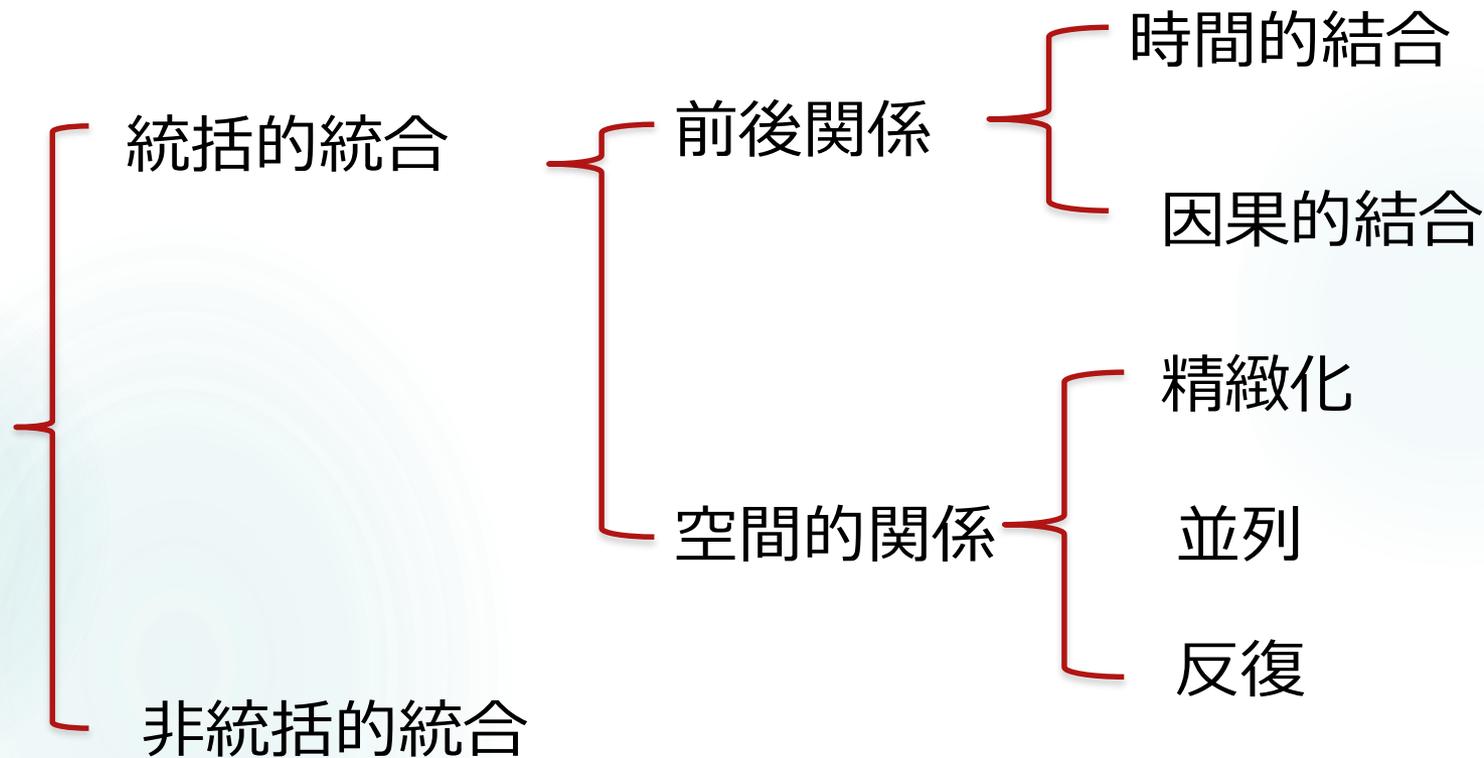
アイデアユニット(IU)の定義

argument(動作主・主語) + relation(関係・述語)

「何がどうした」「何がどんなだ」という命題を単位とする。(内田(1996)p22)

4 分析方法 4 単位間の結合関係

内田（1996）のエピソード結合の分析カテゴリーより



本研究においては、この結合関係のカテゴリーを、エピソード・センテンス間の関係の分析に利用

5 分析手順 1 分析

(3年生F児童)

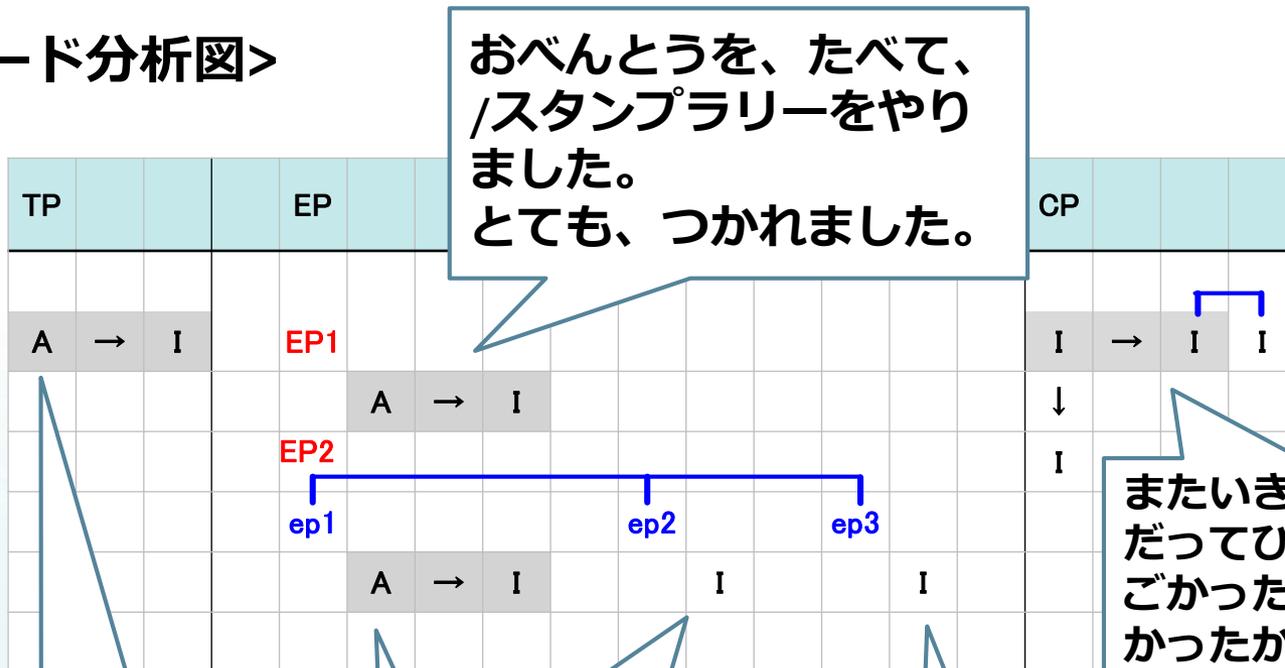
TP/EP/CP	EP	EP間の関係	ep	ep間の関係	本文 (IU)	センテンスA D I	センテンスのep 内の位置づけ
TP					きのお、全校遠足に、いったよ、	A	
					とてもたのしかった。	I	精緻化
EP	EP1				おべんとうを、たべて、/スタンプラリーをしました。	A	
					とても、つかれました。	I	精緻化
	EP2	無	ep1		テングザルにあい、あいまし●、	A	
					とても、かわいかったです。	I	精緻化
			ep2	並列	オカピもかわいかったです。	I	
			ep3	並列	インドゾウと、インドライオンわ、カッコヨかったです。	I	
CP					またいきたいです。	I	
					だってひろいし、/すごかったし、/たのしかったからです。	I	因果的結合
					こんどはままとパパでかぞくでいきたいです。	I	2文前の精緻化
					おいしいものたべて/あそんでいきたいです。	I	並列

5 分析手順 2 分析結果の点数化

配点	3部構成 (TP / EP / CP)	階層化	結合関係の多様性	IUの数と関係の多様性
3	—	階層化が複雑	—	センテンス内のIUが多く関係が多様
2	有り EPと関係明確	階層化が多いが単純。階層化は少ないが、複雑	前後・空間のいずれかが軸となり多様	IUは多いが単純、IUは少ないが複雑
1	・どちらかで関係明確 ・両方あるが関係不明確	階層化が少なく単純	前後・空間のいずれか一方のみの結合	IUが少なく、単純
0	どちらも無い	階層化されていない	関係があらわされていない	ほぼ1センテンス1IU

5 分析手順3 分析図の作成

<エピソード分析図>



おべんとうを、たべて、
/スタンプラリーをやり
ました。
とても、つかれました。

またいきたいです。
だってひろいし、/す
ごかったし、/たのし
かったからです。
こんどはままとパパで
かぞくでいきたいです。
おいしいものたべて/
あそんでいきたいです。

オカピもか
わい
かつた
です。

きのお、全校遠足に、
いったよ、
とてもたのしかった。

テングザルにあい、
あいまし●、
とても、かわい
かつたです。

インドゾウと、イン
ドライオンわ、カツ
コヨかつたです。

6 結果1 全体の傾向

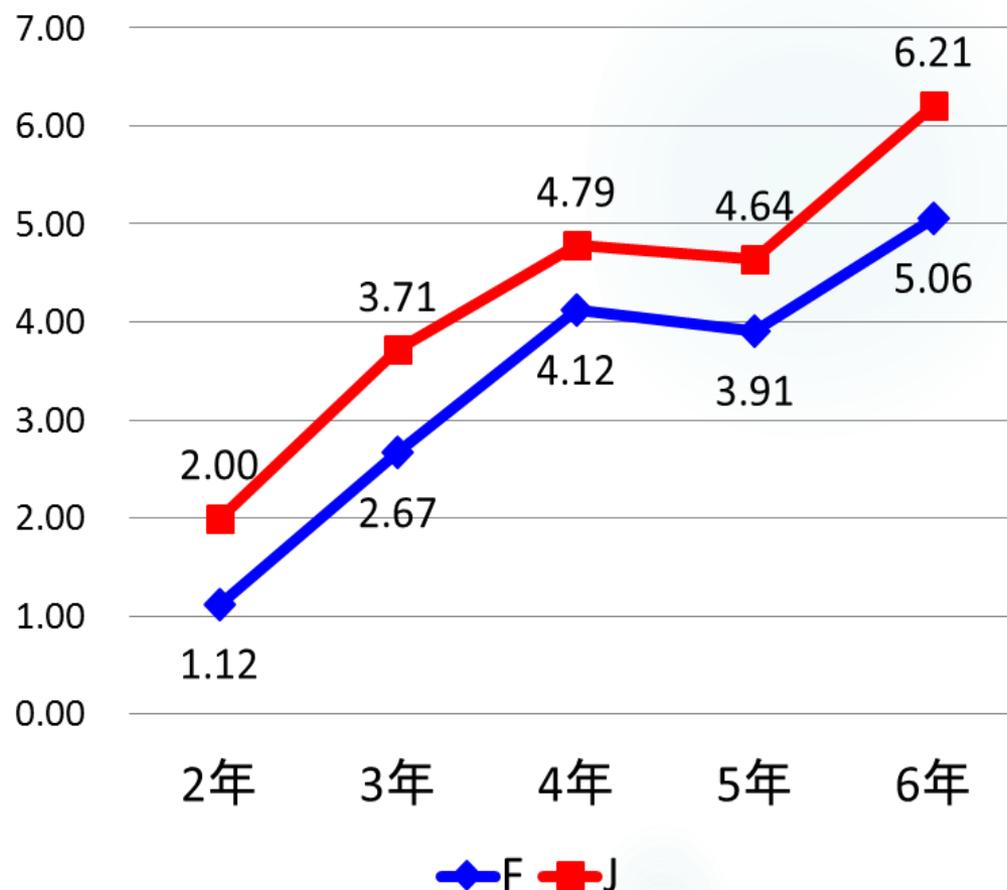
13

一点数化したデータから変化を捉える

① 2年から6年までの
総合点の変化

- どの学年でもJがF
を上回り、その差が
縮まらない。

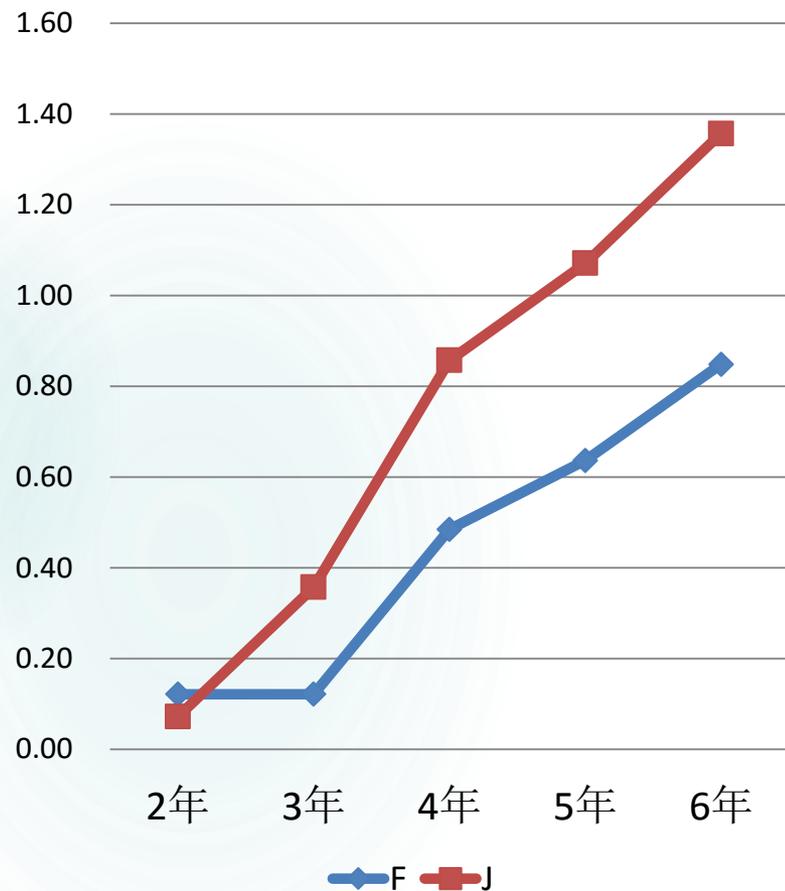
エピソード分析総合点



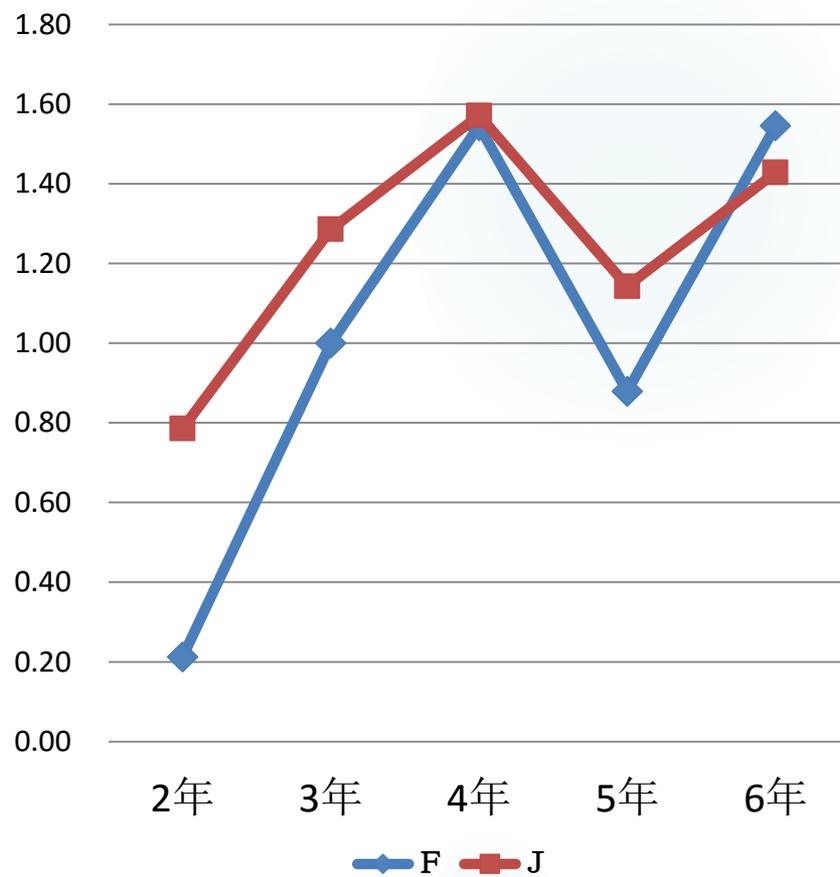
② 項目別の变化

- ・ 3部構成は学年が上がるにつれFとJの差が広がる。
- ・ 段落の階層化は中学年でF J同程度となり、その後F Jとも伸びは見られない。

3部構成(2点)

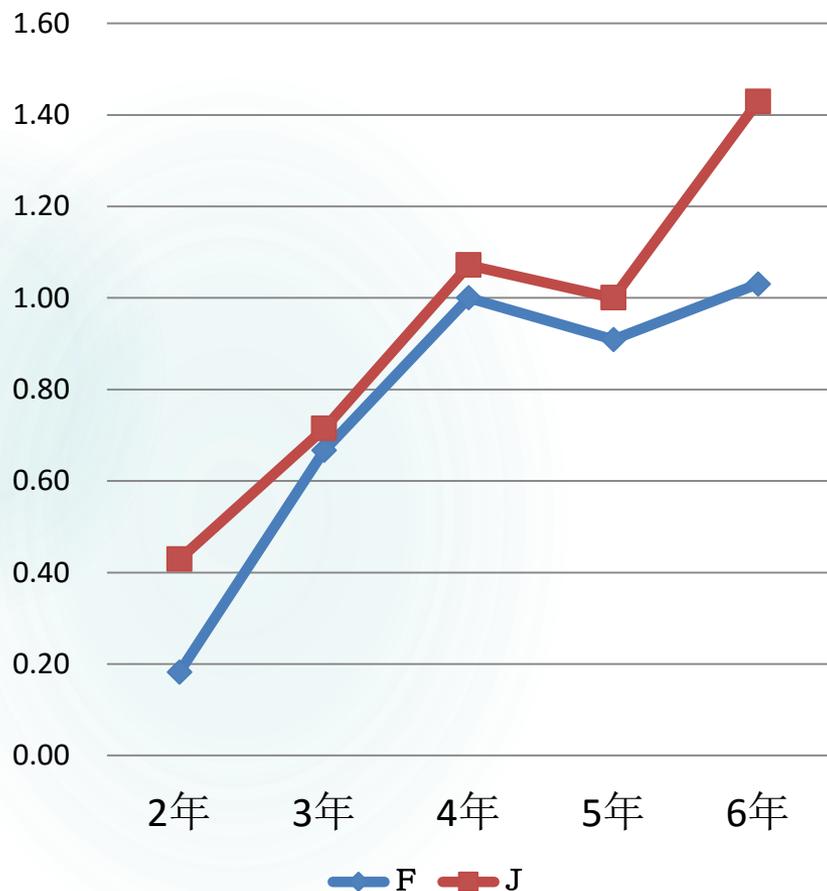


階層化(3点)

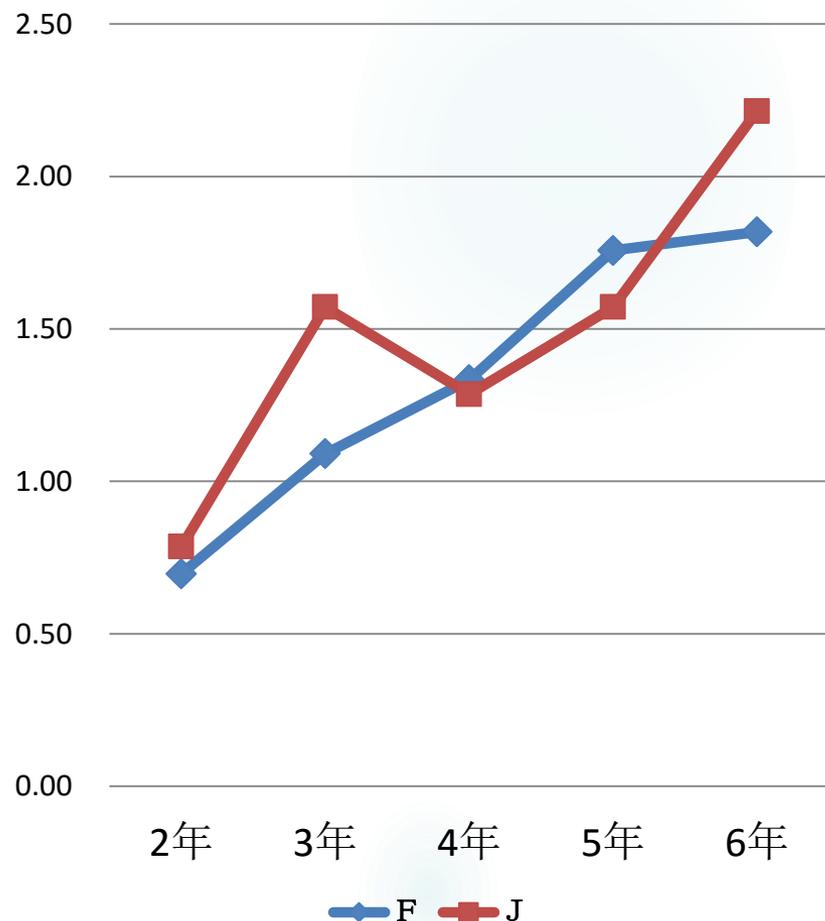


- 結合関係と I U は中学年で同程度になるが、高学年で J がさらに伸びるのに対し、F はそれほど伸びない。

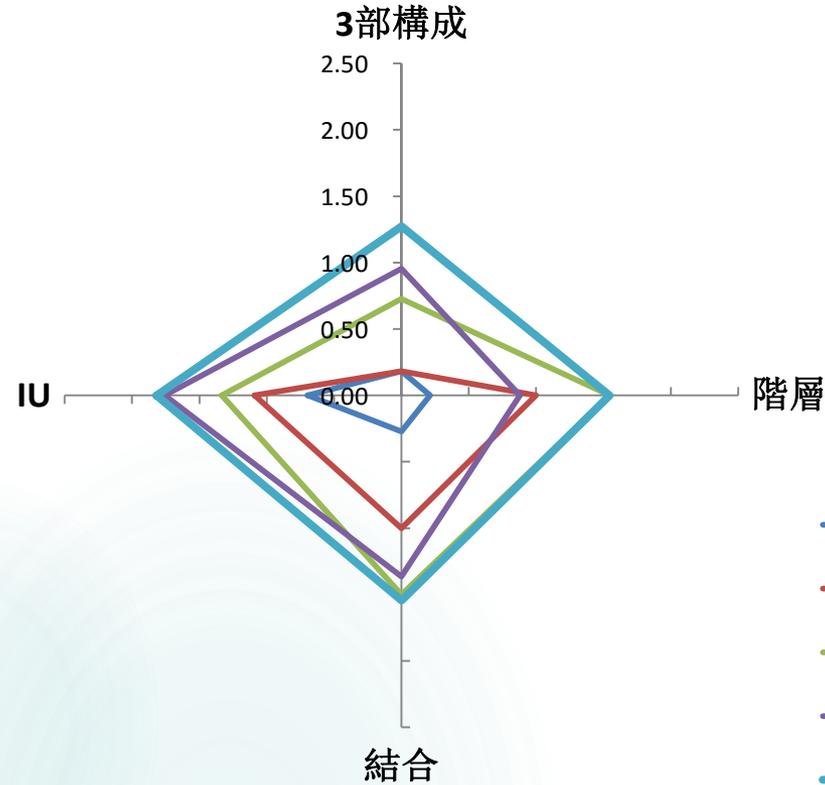
結合関係(2点)



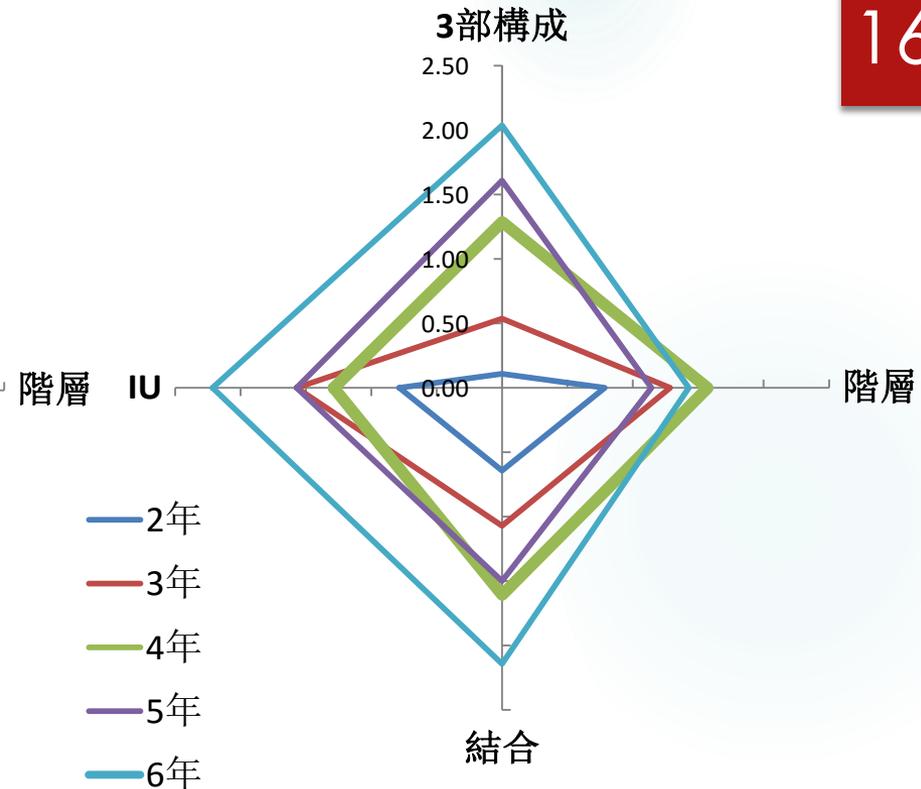
IU数と関係の多様性(3点)



4項目の発達のバランス F



4項目の発達のバランス J



16

- F : 「結合関係」が中学年までに発達するのに対し、「3部構成」「階層化」は時間をかけて発達する。
- J : 先に「3部構成」と「結合関係の多様性」で発達が進み、その後、IU数とその関係の多様性が発達する。

全体的な傾向のまとめ

- ▶ 2年では F ・ J 間に一定程度の差があり、6年でもその差は解消されない。
- ▶ J と比較した F の発達の特徴：
 - ・ F は段落を構成する力が6年になっても十分に発達していない（3部構成）。
 - ・ F は高学年になっても、命題間の結合関係が単純である（結合関係・IU）。

6 結果2 ケース別文章構成力の発達

ケース1：2年と6年で総合点に差が大きいF

ケース2：2年と6年で総合点に差が大きいJ

ケース3：2年と6年で総合点に差が小さいF

ケース4：2年と6年で総合点に差が小さいJ

ケース5：6年でも総合点が1の児童F

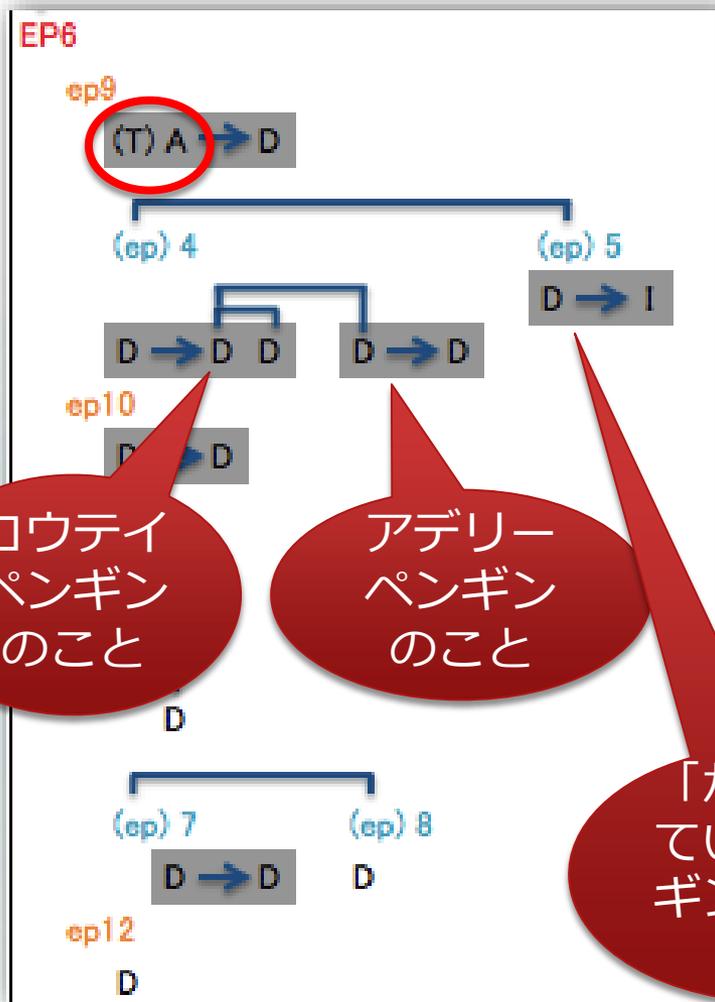
ケース1： 総合点の差が大きいF

F 2年 総合点：0（3部構成：0、階層：0、結合：0、IU：0）

TP	EP	CP
A → I	EP1 D	
	EP2 D	
	EP3 A	
	EP4 D → D	
	EP5 D	
	EP6 D	
	EP7 D	
	EP8 D → I	
	EP9 D	
	EP10 D	

- ・ センテンス間の関係を表す接続詞や指示詞などの標識がほぼみられず、印象的だった出来事を並置した構成
- ・ ほとんどのEPが1センテンスで構成されている

ぜん校えんそくにいきました。とてもつかれたです。水とうのなかみがなくなりました。川の水がつめたかったです。すたんぷをあつめたとき1いになりました。しゅっぱつしたとき川のなかに石のざりがにのかをわみえなかったけど、ちょっぴりざりかにのてがみえましたいろは、赤でした。いけに赤いこいとがいました。どろがぬまみたいにべたべたでした。川をわたろうとしたらとつぜんぼうしがおこちました。川にアメンボモーがいましたとても小さかったです。水がゆれていました。川にいしがいっぱいでした。



次に行ったのがペンギンのところ
です。

- 時間的結合を軸にしなが
ら、精緻化や並列など空間
的關係もみられる
- EPの階層化がみられ、EP内
の構成が複雑化している

コウテイ
ペンギン
のこと

アデリー
ペンギン
のこと

「かたまっ
ているペン
ギン」のこ
と



きのうふれあい動物園で鳥とふれあいました。

ヒヨコのこと

「べつ」のこと

ニワトリのこと

- ・ EP内が階層化し、構成が複雑化している
- ・ 時間的結合を軸としながら、epの並列、センテンス間の精緻化などの空間的結合もみられる

ケース3：総合点の差が小さいF

22

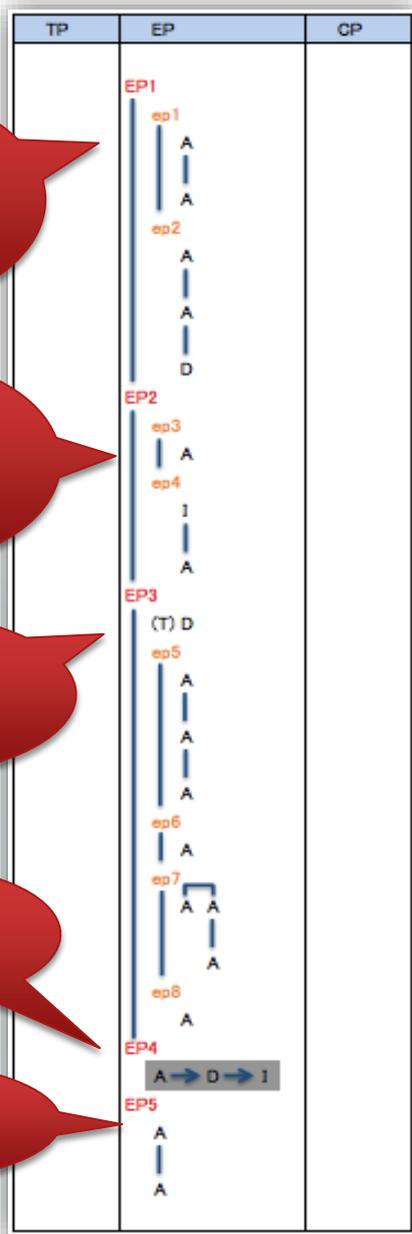
公園に着くまで

公園に着いてから

スタンプラリー

お弁当

帰り道



F 2年 総合点：3

(3部構成：0、階層：2、結合：1、IU：0)

- EPの階層化がみられる
- 時間的結合を示す関係標識「そして」「そのあと」「そしたら」が使用されているが、多用されており、不適切な使用もみられる

そしてスタンプをもらいました。
そしてヘビのぬけがらをさわりました。
そしてかいだんをののって●●先生にあって
ロープウェイにのって●●先生からスタンプ
をもらいました

TP	EP	CP
<p>I</p>	<p>EP1 EP2 EP3 EP4 EP6 EP7 EP8 EP9 EP10</p> <p>D A D→I D→I A→D→I D→D→D A→I (T)A D→A→I</p> <p>ep1 D D D</p> <p>ep2 A</p> <p>ep3 I D D→I</p>	

● ● 水族館でたのしかったことは全部です。

イルカ
ショー
のこと

「1こ目は～です」・・・
「10こ目は～です」

- TPがみられる
- EPの階層化がみられるが、ep間の関係標識はなく羅列されている

TP	EP	CP
A	<p>EP1 (T) A</p> <p>アスレチック</p> <p>ep1 A → D ep2 A → A ep3 A → I</p> <p>EP2 A A</p> <p>EP3 I → I</p> <p>ふれあい動物園</p>	

●●公園では、アスレチック、ふれあい動物、グループごとのレクをやった。

アスレチック

グループのレク

ふれあい動物園

- ・ 階層化がみられるが、ep内のセンテンスは少ない
- ・ 結合関係を示す関係標識がみられず、EP間の結合関係が示されていない

7 (1) 文章構成力の発達のまとめ

<日本生育外国人児童の文章構成力の発達>

- ・日本人児童に比べ、発達に遅れがみられる。
- ・高学年になっても、差は縮まらず、他の側面の力以上に、「作文力」の発達を左右している可能性がある。
- ・ただし、FJともに、ケースによる違いが大きい。

<作文構成力の発達の過程>

エピソード間の結合関係の標識がない並置

⇒ 前後関係を中心にした単純な構成

⇒ 空間的結合が織り込まれ縦横に関係の見られる構成

⇒ 段落構成が明確で、文章全体が統括的に結ばれた構成

8 (2) 今後の課題

- 1 分析方法の再検討が必要

 - 2 文章構成力の分析結果を他の側面の分析結果と合わせ、包括的にリテラシーの発達を捉える
 - ⇔ ルーブリックによる内容評価の結果
 - ⇔ センテンス内の構造
 - ⇔ 語彙
- 総合的な考察が必要

ご清聴ありがとうございました。